

教職支援室便り（11月号）

令和7年11月14日（金）

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教員採用選考試験合格者の声

10月号に続き、「教員採用選考試験合格者の声」を掲載したいと思います。

<現役合格者の声①>

特別講座を通して、教職に対する考え方を深めることができたと感じています。演習問題やディスカッションを通して、教師としての姿勢や教育現場が抱える問題や課題について考え学んできたことは、今後の教職人生で大いに役立つものであると思います。そして、講座に参加している中で、自分の考え方が変化したり、考えが明確化されたりして、人としての在り方についても改めて考える機会となりました。試験は不安もありましたが、特別講座で学んだことが大きな支えとなり、自信を持って臨むことができました。

また、私は2月末から特別講座の参加を再開しました。振り返ると特別講座を受講していた期間は、本当にあっという間に過ぎていきました。そしてこの期間は、教職に対する学びを深めるだけではなく、周りの方々のサポートのありがたさを感じた約半年間でもありました。6月に一次試験、その後教育実習、そしてすぐに二次試験と非常に忙しい日々でしたが、先生と一緒に受験した他の学生のサポートがあったからこそ、無事に試験を乗り越えられたのだと思います。面接対策や模擬授業の演習に加え、先生方の励ましや応援、他の学生との関わりは、私の精神面も支えていただきました。

教員採用試験は、自分の中で大きな挑戦であり貴重な経験でした。そしてこの経験を通して、達成感や充実感を感じただけではなく、自分が自分自身に自信を持つことができ、人としての成長もあったのではないかと思います。しかし、それがあったのもこのような環境にいたることができたからだと思います。

教育現場は、日々変化する場所だと思います。子どもたちからや先輩の先生方から学ぶこと、研修を通して学ぶこと、その中で自分と向き合ったり、様々な感情を経験したりして成長していくことができればと思っています。そして、このような経験の中には人との関わりがあつてからこそだと思います。そういったことに感謝する気持ちを大切にしていきたいと思っています。特別講座からは、本当にたくさんのことを学ぶことができたと思っていますが、このことも学べたことの大切な一つだと感じています。非常に貴重な時間でした。参加させていただきありがとうございました。

これからの大学生活でも、授業やボランティア活動などに参加して、少しでも学んだことを活かし深め、先生になるための準備を進めていきたいと思っています。

<現役合格者の声②>

一次試験対策では、教員として知っておくべき法律などについての演習を通して、知識を身につけることだけでなく、その法律ができた背景やなぜそのようなきまりがあるのか、教員としてどのような行動を心がけなければならないかなど、自分事として落とし込むことができた。この経験は、これからも大いに役に立つと思う。また、二次試験対策では面接演習やグループワークを通して、自分の目指す教員像がはっきりとしてきた。回数を重ねるごとに自信がついてきたり、自分の強みに気づくきっかけになったりもした。自分が演習をするだけでなく、他の人の演習の様子を見ることで、さまざまな視点を得ることができたと思う。そして、知識や教養の面だけでなく、先生や仲間の存在も私にとって大きな支えとなっていた。この講座に参加して、本当に良かったと感じる。

二次試験では、正直上手いはずの悔いが残った点もあり、合格発表が出るまでは本当に不安だった。そのため、合格を知ったときはものすごく安心したと同時に、足りない部分を補い、さらに成長していくために、もっと自身を磨き勉強していく必要があると感じた。また、合格したあとは、お世話になった方々に報告の連絡をするのに1時間以上かかった。それだけ多くの人に支えられて、今の私があるということを再度実感し、恩返しをするためにも、素敵な先生になれるよう努力し続けたい。

曾我先生、お忙しい中、私たちのために時間を割いて講座を開いてくださり、本当にありがとうございました。この講座で学んだことをこれからも心に留め、頑張る糧にします。

<現役合格者の声③>

今回、合格の通知を頂き、お世話になった先生方や家族、友人にそれを報告できたことが何より良かったなと思います。提出書類に、公立学校に勤務する親族として、私が教員を目指した最初のきっかけである親戚の名前を書いたとき、これから同じ場所に足を踏み入れるのだと感慨深く思いました。あっという間にやってきそうな4月には、すでに教壇に立っている自分を想像することは難しく、実感も湧いていないような気がします。面接演習での「赴任最初の4月1日、あなたは何をしますか」という問いに、自分なら何と答えるかを長く考えていましたが、私は、担当するクラスの教室で、最初の1年間で精一杯やり切れることを願いながら、黒板に自分の名前を書き、そこで実感と自覚と楽しみを同時に得たいと思います。

先日、実習校の体育大会に伺ったのですが、そこであちこちから声を掛けてもらう中で、「先生と生徒」とは、教員の立場からだとして、相手が「生徒550人の内の1人」に見えたとしても、生徒にとっては、相手は「たった一人の〇〇先生」なのだなと、教員の存在の大きさを強く感じました。そして、それと同時に、教員から生徒一人一人に対する姿勢もそうでなければならないと気付かせられました。これから年数を重ねて関わった生徒がどれだけ増えたとしても、「1対1の人と人」「それぞれの生徒もたった一人」だということをきちんと理解し、一人一人に丁寧に関わる姿勢を持ち続けたいと思います。

これまで「先生っていいな」と思わせてくれた大人たちを見て自分が目指していたのは、きっと、先生になる事自体ではなく、先生になってその人たちのような生き方をすることであって、目指すところはまだまだ遠くにあるなと感じます。スタートラインに立てた今、「私には先生は無理だ」と思っていた頃の過去の自分には、「やっぱり頑張るよ」と伝えたいです。きっかけを作ってくれた人たちや背中を押してくれた人たち、協力し合った仲間たち、今に繋がる様々な経験など、これまでのことをしっかりと心に留め、教育者としての責任を持ってこれからを歩んでいきたいと思います。

曾我先生、宮内先生、金丸さん、実習校の先生方、これまでたくさんの方からご指導、ご支援を頂きました。曾我先生には、最後の一人になるまで面接演習をして頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。この教職特別講座の卒業生として自信を持ち、私の教員人生の原点として、迷った時にはここでの学びに立ち返りながら、故郷の学校に活気と笑顔をもたらす力の一部になりたいと思います。本当にありがとうございました。

「教職特別講座の思い出」卒業生からの寄稿

10月号から、「教職特別講座の思い出」をテーマに、卒業生からの寄稿文を掲載しています。卒業生の皆さんが今、どのように「教職特別講座」を受け止めているのかなど、率直な気持ちや考えを知ることができればと思っています。

今回は、佐賀県唐津市立外町小学校の内田笑里さんの寄稿文です。お忙しい中、本当にありがとうございました。

令和2年3月卒業
佐賀県唐津市立外町小学校 内田笑里さん

宮崎公立大学での勉強会（教職特別講座）を思い返すと、何十年も前のことのように感じます。私が公立大を卒業したあの頃は、コロナウイルスが大流行していて、思うようにいかない日々でした。目前に控えた卒業式も感染症対策の為、急遽中止になり、愕然としたことを覚えています。そして、卒業後、4月からアメリカで日本語教師のインターンとして活動するはずだった予定も延期になり、「私はこれからどうしたらいいだろう・・・。」と途方に暮れていました。そのときに、アメリカから日本へ戻ったら教員採用試験を受けようと決めていたので、アメリカへ行けない間は、4月から教員採用試験の勉強をしないと、曾我先生に頼み込みに行ったことを覚えています。そのときは既に勉強会（教職特別講座）は始まっていたので、途中からの参加ということもあり、私の心の中は“焦り”と“不安”でいっぱいでした。遅れを取り戻すために必死に勉強しました。日中は、採用試験の勉強に集中し、卒業後なので夕方から夜にかけては、学生時代のアルバイトを続けていました。そんな焦燥感まみれの私に「4月から始めても合格しますよ。」と勇気づけてくださったのが曾我先生でした。「絶対に合格してみせる！」と心に誓い、働いているとき以外は、一般・教職教養や専門試験の過去問を何度も解きなおしました。あれこれ色んな参考書を使うのではなく、1冊の佐賀県教員採用試験の過去問を繰り返し解いていきました。まずは、一次試験に向けて合格するための勉強をしていましたが、平行して二次試験対策も行っていました。面接の質問内容や、模擬授業の対策を曾我先生に見ていただいて、アドバイスを受けていました。自分の話し方や受け答えの仕方を分析するために、毎回ビデオ撮影をしていました。練習ですが、同級生や曾我先生に毎回見ていただいていたので、緊張感をもって取り組むことができました。無事に一次試験・二次試験ともに合格通知を受け取り、その後、当初果たしたかったアメリカでのインターンシップも経験することができました。10月～3月の半年間はアメリカでの生活を経験し、晴れて4月からは地元佐賀県で担任として勤めることができました。今現在は、唐津市立の小学校で外国語（英語）専科として2校兼務で勤めています。あの大変だった時期を乗り越えることができたからこそ、今、教員として働くことができているのだと感じます。お世話になった曾我先生には感謝の気持ちでいっぱいです。この気持ちが蘇り、益々教員としての仕事を全うしようと思います。

「教職特別講座」の新たなスタート

次年度、教員採用選考試験を受験する13名の学生の皆さんを対象に、10月28日（火）、「教職特別講座」のオリエンテーションを行いました。そして現在、「教職特別講座」が始まっています。これから、様々な演習を重ねる中で、教職教養、専門教養などの筆記試験対策とともに、学校教育に関する問題・課題を提示し、それに関する討論も取り入れながら、教職への理解を図っていきます。

学生の皆さんには、自己の目標を明確にもち、この「教職特別講座」を有意義なものにしてほしいと思いますが、特に大切な姿勢は「主体性」です。他律的な姿勢では成果は得られません。課題解決に向けて、自分から求めていく意欲、誠実さなどが不可欠です。「教職特別講座」で何を学ぶのか、どのような姿勢で臨むのかについて、しっかりとした考えをもって取り組んでほしいと思います。今回「教職特別講座」に参加する、学生の皆さんの取組にも大いに期待しているところです。

学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負を、一部紹介します。

私は将来、生徒が楽しんで参加できる授業を行い、一人ひとりの個性を捉えて好奇心を刺激する学びの場をつくりたいと考えています。また、高校教員にとって進路指導も重要な役割であると考えています。生徒の進路達成を支援できる力を備えた教員を目指します。そのために、集団討論やグループワークを通して自分自身を見つめ直し、教員としての在り方を深めながら資質・能力を磨き、生徒に適切なサポートができるようになりたいです。特別講座では授業技術や基礎知識を身につけ、将来自信をもって教壇に立てるよう努力します。わからないことも多くまだ不安はありますが、この講座を自己成長の機会と捉え、向上心を持って取り組みます。

私は将来、生徒たち一人一人の主体性を大事にして、成長を全力で支える教師を目指しています。そのために、自分の教育に対する考えや生徒への接した方をより深く掘り下げ、自分のなりたい教師像になるための課題を見つけ、克服していく必要があります。現段階では私は人前に立って自分の意見を伝えることが苦手なので、1番はこのことを克服したいと思っています。この教職特別講座を通して、基本的な知識や技能の他にも自分の考えを深めながら、教員としての資質・能力と生徒に対して真摯に向き合う姿勢を学びたいと思います。この講座の中で多くのことを吸収し、同じ想いを持つ同士と切磋琢磨しながら常に学び続ける姿勢を忘れずに、教育現場で必要とされる教員像に近づけるよう努力を重ねていきます。

私は、同じ志を持つ仲間と一緒に学ぶ中で、教育に携わる者としての基礎をしっかりと身につけるために、何事も柔軟に対応できる教師を目指してこの教職特別講座を受講します。授業づくりや生徒理解など、教育現場で求められる力を実践的に学び、自分の教育観を見つめたいと考えています。特に、仲間の意見を聞き、協力しながら課題に取り組む中で、自分にはない視点や工夫を吸収したいです。教員採用試験に向けての学習を通して、知識だけでなく人間的にも成長できるよう、前向きに努力していきます。将来、お手本として背中は見せつつ、心はすぐそばにいられるような教師になれるよう、毎回の授業を大切に、最後まで諦めず努力を続けていきたいです。

学生の皆さんの「教職特別講座」への抱負については、12月号にも掲載したいと思います。

道徳の教科化に思う！（シリーズ102）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、7月号からスタートしたテーマ「生きる力をはぐくむ道徳授業の創造～発問や教材(資料)選択を児童にゆだねる道徳の時間の指導の在り方～」の5として、「研究の実際その4：効果的な学習形態の工夫」について掲載します。

＜一つの内容項目についての複数時間配当する道徳の授業計画＞

1 指導計画作成の工夫

- (1) 一つの内容項目について、年間に複数時間配当する場合の年間指導計画上の位置付け
- (2) 複数時間をひとまとまりと考えての各時間の性格付け
- (3) 「ねらい」と児童の活動を中心とした学習方法の位置付け

2 一単位時間の性格付け

- (1) 指導計画における特質に基づく一単位時間の弾力的運用
- (2) 一単位時間の弾力的運用に基づいた児童の活動と教師の支援の在り方

＜児童の側に立つ学習指導過程の改善と教師の手立て＞

- 1 「ねらい」の設定の在り方
- 2 児童による教材選択の方法
- 3 児童が作り出す発問の工夫
 - (1) 基本的な考え方
 - (2) 児童の発問に委ねる意図
- 4 ワークシートの内容の工夫
 - (1) 基本的な考え方
 - (2) ワークシートの内容

ここまでの内容を、8月号、9月号、10月号に掲載しました。



＜効果的な学習形態の工夫＞

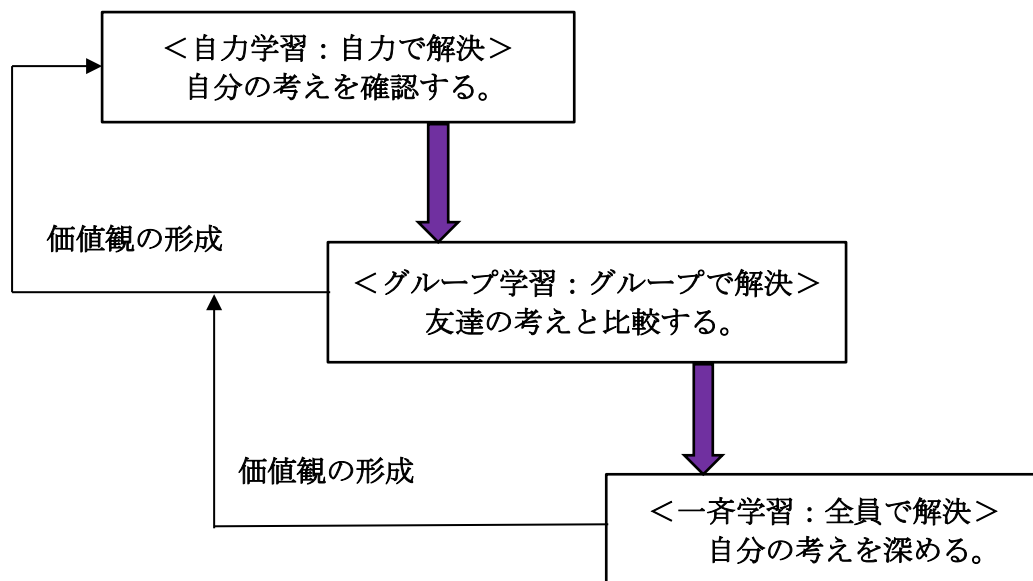
1 自力解決の場の位置付け

- ### (1) 自力解決の重要性

自力解決とは、グループまたは全員で問題を解決することではなく、一人で解決することである。教師や友達の力を借りることなく、自分の考えをもち問題に取り組むことは、自ら学ぶ意欲を高めると同時に、より学習の成就感を味わわせることができる。特に、道徳科の時間においては、問題の答えに対する正・誤はなく、主人公の生き方について自分なりの考えをもつことが重要である。

- ## (2) 自力学習とグループ学習、一斉学習との関連

グループや全員で学習することは、自分の考えを広めたり深めたりする点からも重要であるが、それらの前に一人で考える場が必要である。自分なりの考えをもち、グループや全員での話し合いに参加することで、より主体的な学習ができる。(次頁の図参照)



2 グループ学習のポイント

道徳科においてグループ学習を行う際は、日頃から次のような学習習慣を指導しておく必要がある。

- ☆ 自分の考えを進んで発表する。
- ☆ 他の考えに対して質問する。
- ☆ 他の考えと違っていても発表する。
- ☆ 自分の正直な気持ちを発表する。
- ☆ 他の考えをしっかりと聞く。

このような活動を通して、深まりのある話合いができ、ねらいとする価値について深く広く考えることができる。